

研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みは実施されているものの、中山間地域を中心にクマをはじめとする野生鳥獣による農林作物等への被害は深刻な状況にあります。そこで、集落ぐるみの対策に取り組む実践型研究プロジェクトを実施します。地域住民の意識調査に基づいて、クマをはじめとする野生動物との軋轢を軽減しうる手法を開発して、獣害に強い集落づくりを目指す島根型モデルを確立します。

研究方法

益田市と浜田市のモデル5集落において、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。出没・被害状況を集落の土地利用や森林環境などから分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、集落ぐるみの被害対策の取り組みにマンパワーが不足している場合の解決策についても検討します。

研究状況

①益田市匹見集落は、クマの出没防止をネット型（高さ1.2m）とリボンワイヤー型（4段張り）の電気柵（約16km）に頼っていますが、十分な維持管理は実施されていませんでした。また、近年匹見集落にはサルの群れも出没し始めて、被害が発生しています。そこで、匹見集落を電気柵の維持管理体制の再構築をきっかけに、集落全体でクマとの共存を考えていくと共に、サルの被害対策も実施していく本プロジェクトサイトに決定しました。電気柵の不具合箇所（ネットの破損、倒木による破損、支柱の倒伏、土砂崩れによる破損、ペグが外れる）を調査すると約400か所もあって、維持管理に問題があることが明らかとなりました（写真1）。

②浜田市の田橋、横山集落は、カキ園が点在してクマによる食害も深刻でした。浜田市は、H24年度から田橋、横山集落を鳥獣被害対策モデル地域に指定して被害対策の指導を始めました。各自治会長にカキ園の管理状況、被害対策の実施の有無、自治会間の連携などについて聞き取りを行って、本調査の対象を田橋上、下、横山西、下の4集落に絞りました。（写真2）。そして、これらの集落のカキ園でのクマ対策をきっかけに、集落全体でクマとの共存を考えていくと共に、カキ園での被害対策の体制構築をしていくための本プロジェクトサイトに決定しました。



写真1 匹見集落の山際に設置された管理が不十分な電気柵（左：ネットが破損、右：雪で支柱が倒伏）



写真2 自治会長からの聞き取り調査（浜田市田橋下集落）

研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策によって被害軽減効果が実証できれば、効果的な取り組みとして、県内全域へ普及させることができます。

また、獣害を集落の許容範囲に抑えることによって、集落の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾（さわだ せいご）

問い合わせ先 : 0854-76-3818

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組み（研究期間：H24年7月～H28年7月）